

松廼家おけい 虚空遍歴

(山本周五郎)より

朗読劇と邦楽演奏が融合した

新しいスタイルの舞台、邦楽ドラマシリーズ。

2009年初演時に話題を呼んだ

名作を、山本陽子を迎えて

再演します。

ものがたり

山本周五郎原作『虚空遍歴』を元に、端唄で一世を風靡した中藤沖也が、浄瑠璃作家として名をなそうと苦闘し、ついに客死した半生を、死の床に集まった女性たちの話を通して描く朗読劇。

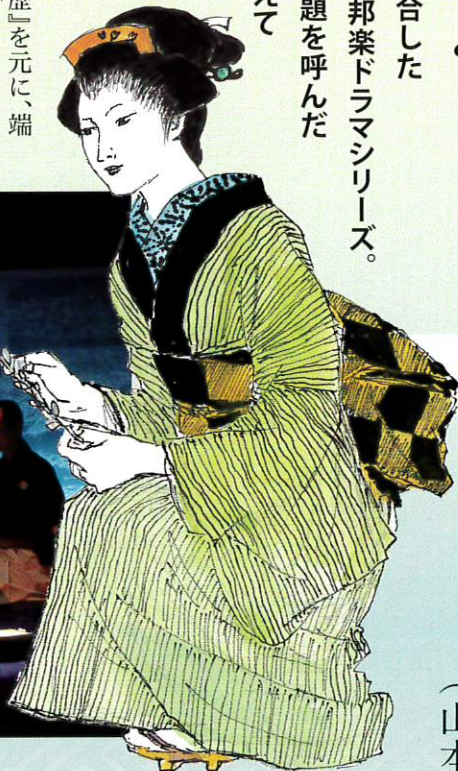
劇中音楽は江戸端唄の第一人者、本條秀太郎が本作品のためにすべて作曲。劇中の演奏も担当し、まるで沖也がそこに居るかのような幻想的な世界が浮かび上がってきます。

沖也をめぐる女性たち

おけいは東京・柳橋の色街育ちの元芸者。沖也の芸を聴き、毛虫が蝶になったような身震いを受け、その芸を慕い、沖也に献身的に尽くすようになります。そのおけいと、沖也の死の床に集まった女たち、正妻のお京、乳母のお幸、宿の女中おなつ、4人の女性たちが胸に秘めた思いを語り出します。



前回の公演より



朝倉 撰・画

2019
3/6 水 17:00開演
7 木 14:00開演
友の会優先発売 11/6
一般発売 11/8

音楽作曲を担当する本條秀太郎です。この作品は若い頃に創作しました俚奏楽「雪の山中」を縁に構築されました。

松廼家おけいの再演は私にとって意味深い作品です。中藤沖也の芸に取り憑かれ迷っては悩み終わりの無い苦しみと向かい合う姿は人生は有限、儂く求めるのは永遠で終わりのないものです。

それは仏教の「空」の世界なのではないか。この先も歩を進めなくてはなりません。

私は三味線を初めて手にした先人のように、「初心」うぶな心で向かい合い常に活力を感じさせ現代においても古くない音楽を考えます。三味線音楽への底知れぬ情熱と憧憬の思いに想像力を沸かせてくれる沖也の生き様に嫉妬しています。

本條秀太郎



おけい (山本陽子)

東京・柳橋の置屋「松廼家」の娘として生まれ育った芸者。ある日向この座敷から聞こえてきた沖也の端唄に聴き惚れる。沖也と旅をともにし、献身的に尽くし、最期を看取る。



正妻・お京 (磯西真喜)

沖也とは幼なじみ。沖也の端唄に心酔している。次第に浄瑠璃へ傾倒し、突然上方へ旅立つ沖也を潔く見送る芯の通った女性でもある。旅先の沖也を案じていた。



乳母・お幸 (岡本瑞恵)

旗本の次男であった沖也は生まれてから幼少期まで乳母に育てられた。沖也に置いて行かれたお京が不憫でならず、またお京から沖也を奪ったと思ひ込み、おけいに苛立ちを隠せない。



おなつ (今村祥佳)

沖也が床に臥せ、息を引き取った宿の若い女中。